

大阪天満宮・天満天神繁昌亭



庶民の暮らしが見える屈指の名所

天神さんこと菅原道真公をまつる大阪天満宮は、949年の創建。いつの時代も大阪の庶民は、天満の天神さん々にさまざまな願いを託してきました。敷地内にある「天満天神繁昌亭」は上方落語唯一の定席。笑いの中に人情があふれます。この場所の歴史を知ると、いち早く都市となった大阪の、人々の暮らしが見えてきます。

ご利益は時代を映す。大阪人の天神さん信仰

今では受験シーズンに多くの学生が参拝に訪れますが、意外にも「学問の神様」との信仰が広まったのは江戸時代。町人たちが学ぶ寺子屋が増えたところ、学問に精通した道真公のご利益にあずかろうと普及していきました。

それ以前の人々が最も恐れていたのは疫病流行。創建当初から長らく「厄除けの神様」として信仰を集めてきました。また、かつては境内に能舞台があり、現在は敷地内に「天満天神繁昌亭」があるなど芸能ともゆかりが深い場所。大阪の庶民にとって大阪天満宮は心の拠り所、暮らしになくてはならない存在です。



表大門の天井には色鮮やかな十二支の彫刻がある



境内の随所にある社紋は道真公ゆかりの「梅鉢」



MINI COLUMN 一年の幸せを願う天神祭

街中が活気づく天神祭。日本三大祭のひとつで、951年に始まった鉾流神事（ほこながしんじ）が起源です。古くは一年の半分が過ぎた日に大川に神鉾（かみほこ）を流し、流れ着いた場所に神様の仮のお休み所を設けて、人々の残る半年の無病息災を祈願しました。7月24日の宵宮（よいみや）と25日の本宮（ほんみや）には130万人もの見物客が訪れます。本宮には約3,000人の大行列が街を練り歩く陸渡御（りくとぎよ）と、夜には約100隻の船が大川を行き交う船渡御（ふなとぎよ）が行われ、最後に奉納花火が夏の夜空を盛大に彩ります。



クライマックスの奉納花火

星合の池とすべらんうどん

池に架かる星合橋で出会った男女は結ばれるという恋愛パワースポットが星合の池（亀の池）。かつては今より大きな池で、ここでのお見合いも行われていました。

奥にある星合茶屋では麺に切れ目が入った「すべらんうどん」を提供。もとは目が不自由な人のために考案されましたが、「受験ですべらん」「芸がすべらん」とすっかり名物に。2月には梅が見頃を迎え、夏には境内の梅で作ったさわやかな特製梅ジュースが楽しめます。



亀の池とも呼ばれる通り、池の中で亀が泳ぐ



CLOSE UP!

歴史通はここから参拝 境内で最古の大將軍社

今では摂社の大將軍社が、実は大阪天満宮の起源。7世紀、都が難波長柄豊崎宮にあった時代、都を守るためにまつられ、太宰府へ左遷される道真公が立ち寄って旅の無事を祈願しました。その約50年後、都で相次ぐ災禍を「道真公の怨霊によるもの」とした村上天皇が、道真公を御祭神に、ゆかりの大將軍社の森に大阪天満宮を建てたのです。



道真公の足跡を追ってここから参拝する人が多い

大阪天満宮

▶天神橋 2-1-8
参拝自由(社務所 9:00 ~ 17:00)
星合茶屋の営業は 11:00 ~ 16:00(不定休)

運命に導かれた悲願の定席

大阪は落語発祥の地でありながら、戦後、長らく落語の定席が途絶えていました。桂文枝・上方落語協会会長(当時)や関係者の尽力により、2006年にオープンしたのが天満天神繁昌亭。大阪天満宮が無償提供した敷地に建設されました。

この界限はかつて「天満八軒」と呼ばれ、演芸や芝居小屋が集まっていた場所。まるで運命に導かれるように誕生した繁昌亭は、戦後、消えかけていた上方落語の灯を必死で守ってきた人々の悲願に、天神さんが起こした奇跡なのかもしれません。



建物正面に「天満八軒」の歴史顕彰板がある

MINI COLUMN 上方落語だけの魅力

華やかな上方文化の影響が強く残る上方落語。「ハメモノ入り」と呼ばれる音曲を使った演目は、三味線や笛、太鼓が舞台裏で生演奏されます。お茶子という着物姿の女性が舞台を整えるのも上方落語だけ。



舞台中央、「楽」の額は故・桂米朝師匠が書いたもの

天満天神繁昌亭

▶天神橋 2-1-34
☎06-6352-4874(11:00 ~ 19:00)
昼席 14:00 ~
昼席料金:
(当日)一般 2,800円、65歳以上 2,500円、
学生 1,500円
(前売)一般 2,500円、65歳以上 2,300円、
学生 1,000円
夜席の開演時間・料金・内容などは日替わり

